文京ふるさと歴史館「友の会だより」増刊号XXXII

花時計

文京ふるさと歴史館友の会事務局
（文京ふるさと歴史館内）

令和6年6月28日発行

●江戸時代の街路が残る小日向

柳澤　愈

私は文京区にある五つの台地のひとつである小日向台地の西端に住んでいます。鼠坂上です。鼠坂を上がった頂きから茗荷谷方向へなだらかな坂があり、そのあたりに東から西へ向けて長さ200メートル、幅40メートルほどの短冊形の街並みが７本広がっています。地元では７本通りと呼んでいます。

年末の小日向台町町会の夜警巡回では、全員で７本通りを回ると時間がかかるので、１、３、５本目の通りと２、４、６本目の通りを２班に分けて回ります。

幕末に作成された切絵図「雑司ヶ谷音羽絵図」に御賄組（おまかないぐみ）と表示された組屋敷があります。この地図では６本通りですが、現在の地図と比べますと全く同じ街路図です。ここは江戸時代に御家人である賄組に一括給付された大縄地（おおなわち）です。古地図で遡りますと、元禄時代（1688-1703）の古地図にも６本通りの街路図が表示されており、延宝時代（1673-1680）、護国寺が建立される前の御薬園であった頃の古地図にも同じ街路図が見られます。明暦（1655-1657）の頃にもそれらしき表示があり、江戸初期、江戸が建設されつつあるときに区画造成されたのでしょうか。

『雑司ヶ谷音羽絵図』（部分）

『東都小石川絵図』（部分）

短冊形の街路は神楽坂に近い新宿区中町、南町にも残っているとのことですが、私はその近くの市谷田町に居住していたこともあり、短冊形の街路に縁が深いのかも知れません。

小日向地区の街路は、切絵図「東都小石川絵図」にみられる街路そのままです。春日通りの西側にある小石川地区は、播磨坂が典型ですが、戦後の都市計画・区画整理などで街路は整然としていますが、小日向地区は区画整理が行われなかったため、江戸時代の街並みが引き継がれています。江戸時代の小日向は大名屋敷が少なく旗本、御家人が多い街でした。南と北に寺院が並んでいます。

最近、地価高騰もあり、戸建て住宅の細分化の傾向が見られますが、街並みは変わりません。江戸時代の街路地が色濃く残る街に居住し、町会のパトロールなどで路地を歩くことは楽しくもあります。

●夏目漱石の深読み

渡邊　征夫

漱石は、そのペンネームを、古代中国の故事　漱石枕流からとり、明治をそのとおり生きた。生涯は、1867年から1916年で、漱石を知れば明治の歴史が判る。明治時代は1868年から1912年。明治の文豪は皆、髭を生やし、アラブの世界のようだ。

漱石は、英国の漱石研究家ダミアン・フラナガンに云わせると、世界レベルと評され、シェークスピアに匹敵すると評されている。慶応3年の旧暦1月5日生まれ、庚申の日で、この日に生まれると、大泥棒になると信じられ、親が心配して、金之助となる。然し、食い扶持を減らすためか、間もなく養子に出され、9歳の時実家に戻る。学業は常に首席で、漢学や英語を学ぶ。特に器械体操は得意であった。

夏目漱石

22歳の時、大学予備門で、正岡子規と知り合い、俳句を学ぶ。さらに子規が発行した和漢詩文集「七艸集」の巻末に、書き加えた漢文の評の中に、初めて「漱石」という文字が使われた。「明治己丑五月念五日　辱知　漱石妄批」とある。

この頃、既に、鷗外は活躍期にあり、漱石は、鷗外を大変評価し、鷗外の嫌いな子規を怒らせた。然し、漱石は鷗外への贄を決して止めなかった。鷗外の「青年」は漱石の「三四郎」に触発され書かれたと云う。子規は漱石の漢籍の実力を認めていた。28歳の時、松山中学に英語教師として赴任。このときの漱石の給料は、校長が60円で漱石が80円で破格であったが、色々と問題が起こり、松山が嫌になり、熊本の五高の英語教師として転勤。時々東京に出てくると、樋口一葉の小説を読み、授業では、有名な「I love you」を「月が美しい」と訳し、此が有名になる。結婚したときに、自分の女房に「俺は学者で勉強しなければならないのだから、お前なんかにかまってはいられない。それは承知していて貰いたい」と宣言。夫人との間に子供が二男五女と沢山生まれた。元来ヒステリーで食事中に卓袱台をひっくり返したこともある。また大甘党で、彼の小説には必ずや甘いものが出てくる。五高の時代に文部省の留学生としてロンドンに留学するが、国の支給経費が少なく大学を諦め、ロンドンで個人授業を受けた。この生活は孤独でかなり精神的に参ったようだ。音楽を聴いたりしたが、ドイツ滞在の知人に手紙を書いている。 I am alone and lonely

友の会の歩み 令和5年度

■第1回史跡巡り　参加者47名
4月26日（水）
「徳川家のおんな達ゆかりの地を巡る～傳通院から麟祥院へ」

■定期総会・記念講演会　参加者88名
5月25日（木）
「徳川将軍家と傳通院」
講師：小笠原正和上人（傳通院）

■第2回史跡巡り　参加者59名
7月6日（木）
「漫画家達の夢の跡・椎名町トキワ荘と周辺見学」

■講演会　参加者64名
7月25日（火）
「時代作家が見た江戸の風景とは？」
講師：辻堂魁氏（時代小説家）

■第3回史跡巡り　参加者49名
9月20日（水）
「佃島から月島もんじゃストリート探訪」

■第4回史跡巡り　参加者44名
10月26日（木）
「区境散歩～御茶の水駅から根津までを辿る」

■バス見学会　参加者43名
11月28日（火）
「足利市鑁阿寺と足利学校見学」

■第5回史跡巡り　参加者67名
12月19日（火）
「三味線堀から鳥越神社へ回り蔵前周辺へ」

■第6回史跡巡り　参加者70名
1月7日（日）
「隅田川七福神巡り」

■研究発表会　参加者60名
2月21日（水）
「文京区の稲荷社報告」
報告者：町田聡（文京区教育委員会）・舟山憲一（郷土史研究会）・柳澤愈（郷土史研究会）・縄崎吉之助（郷土史研究会）・鈴木純太（郷土史研究会）各氏

■第7回史跡巡り　参加者42名
3月26日（火）
「中川船番所から仙台堀公園の桜と砂町銀座散策」

その他「友の会だより」年3回発行、増刊号「花時計」年1回発行、役員会月1回開催、文京まち案内（年13回）、館主催史跡巡り4回実施、生涯学習フェア展示参加（会員募集等）

バス見学会

研究発表会

生涯学習フェア

友の会へのお誘い

友の会会員になると、文京ふるさと歴史館の入館料が免除になります。また、歴史館の特別展・歴史講座事業等のご案内をお届けします。

さらに、友の会では独自の活動として文化財や博物館の見学会や史跡巡り、講演会、会員の研究発表などを行っています。

また平成22年度には、永年にわたる活動が評価され、「生涯学習事業関係団体」として文京区区政功労者表彰を受け、区長より表彰状と銀杯が授与されました。

文京区民はもちろん、区外の方でも入会できます。会費は年間1,500円、行事に参加するときは実費を徴収させていただきます。詳しくは、友の会事務局まで御連絡ください。

［連絡先］〒113-0033 東京都文京区本郷4－9－29
電話 03(3818)7221
文京ふるさと歴史館内　友の会事務局

「文京まち案内」へのお誘い

文京ふるさと歴史館友の会ボランティアガイド「文京まち案内」は、平成11年に発足しました。「文京区の良さを伝えたい、地域のために役に立ちたい」というのが結成の目的です。ガイドの依頼は各地からあり、少人数のグループから50人を超える団体まで、さまざまな依頼に対応しています。

文京を訪れたい、文京のまちを歩きたい、歴史や文化をもっと知りたいと思ったとき、ぜひ「文京まち案内」をご利用ください。

また、文京区の歴史に興味がある方、歩くのが好きな方、人との出会いを楽しみたい方、「文京まち案内」に入ってみませんか。メンバーは現在17名。初めての方でも自主研修会に参加し、経験者と組んで案内するうちに知識が身につくので心配ありません。自分の勉強にもなりますし、終わった時、先方が満足し感謝していただければ最高の喜びです。意欲のある方は、ぜひ友の会事務局までお問い合わせください。

印刷物番号 D0124006